領域「表現」における音楽指導

<「保育と音楽表現」の授業報告と主に「手作り手遊び歌」について>

中 村 浩 美

Musical quidance in territoty "expression"

Class report of nurture and musical expression

It's abaut "homemade children's song" In the center

Hiromi NAKAMURA

キーワード:領域「表現」 授業内容 手作り手遊び歌 完成作品と感想

はじめに

本学2年生が受講する「保育と音楽表現」は、 幼稚園教諭2種免許と保育士資格を取得するため の必修授業である。

この授業は保育者になるために必要不可欠なピアノ奏法・弾き歌い・手遊び歌など、子ども達が大好きな音楽を子ども達に指導するために修得するものである。しかしながらピアノ奏法と弾き歌いは、学生にとって実技として最も苦手意識が高く、練習時間も要する教科でもある。

授業内容は、ピアノ個人レッスンと手遊び歌・季節の弾き歌い・歌唱法の2種類を前半と後半に分かれて、それぞれ45分ずつ(移動時間もあるため正味40分弱)行っている。2年生全人数を3班に分け、1つの班当たり毎年35名~38名程度に分散し、1コマ(90分)当たり17名~18名(今年度)ずつが前半と後半に分かれての授業としている。ピアノ個人レッスンは各教員の指導室で常勤教員1名、非常勤教員8名で行い、手遊び歌・季節の弾き歌い・歌唱法は常勤1名が音楽あそび室で行っている。

音楽あそび室では手遊び歌や歌唱法を交えた季節の弾き歌いを指導しているため、学生が保育者になるための意識を高く持って積極的に受講できるよう、壁面などを飾り模様も付けて保育室のよ

うなイメージを持てるような工夫もしている。

ピアノ奏法においては1年生から違う担当教員 に引継ぎを行い、エチュードの進度や技術面・音 楽性によって子ども達が歌いやすいような伴奏法 を高めるために個人レッスンを行っている。

この2種類の授業時間があまりにも短く、一人 当たりの個人レッスン時間は僅か10分~15分程度 になってしまうのが現状である。この件では、手 遊び歌・季節の弾き歌い・歌唱法も保育者になる ために多くの手遊び歌や弾き歌いの楽曲を、就職 先の現場で困ることなくたくさんストックしてお く必要性があるため、授業のみでの指導時間が短 いことは大きな問題点である。

学生の授業数と時間割を考えると、とてもタイトでスケジュールに余裕がなく、休み時間や空き時間、放課後の時間を教員と学生間の都合を合わせて個人指導を行うことが多くあると言うことも知っておいて欲しい。

上記に述べた学生のタイトなスケジュールと、 授業内容から考える短い時間での指導にご理解を 頂けたと思われる。

今年度は音楽領域である「保育と音楽表現」の 手遊び歌・歌唱法を交えた季節の弾き歌いを指導 する担当教員として、3年前より始めた学生自ら がグループで活動作成する、世界でただ一つの「手 作り手遊び歌」について、今年度の学生の完成作品の楽曲やパフォーマンスについて、またその活動作成に当たっての教員の指導、学生のグループ活動内容や完成までと完成した後の発表などのアンケートの内容、今後の課題点を、学生の完成作品を下に報告することとした。

<保育と音楽表現の音楽あそび室における授業内容の概要>

前にも述べたように、授業を行う音楽あそび室は、保育者になるための意識を高めてイメージを持てるよう、子ども達が和めるための壁面や飾りをして、保育ルームらしい教室にしている。

また、弾き歌いのための歌唱指導において、小さな机付きの折りたたみ簡易椅子の前に、一人1つずつ譜面台を置くようにもしている。これは楽譜を見て下を向かず歌唱法に必要な体の使い方や口の開け方、表情筋の使い方に注意しながら理想的な声に注意して歌えるための方法の一つである。

教室内にはアップライトピアノの他に、本学に 赴任した以前に使用されていたオルガン6台と キーボードを使用できるようにしている。

授業の概要であるが、まず保育者になるための 音楽のあり方、つまり保育者になるための意識改 革・先生と言う女優になること・歌うことへの喜 びや楽しみを感じること・イメージ力の強化・練 習方法などをしっかり受け止めて成長していくこ との大切さを講義する。

意識改革とは保育者になるために、常に元気な 笑顔ある挨拶、反応や応答をはっきりと行う。い ろんなことに気付き行動に移す。いつも子ども達 が側にいることや曲のイメージを持つこと。人の 前に出ることに対して恥ずかしがらず、立ち姿や 表情にも気をつけて堂々とした態度で先生と言う 女優になりきること。これらのことは殆どの学生 が苦手なことであるため、授業で繰り返し指導し 続けている。2年生に進級して間もなく6月の教 育実習が始まり、10月までに保育園実習、さらに 集大成である最後の教育実習があり、その間にも 就職活動もあり行き着く暇もなく追われる状況と なることを覚悟して、それぞれの課題点を克服し ていくことを担当教員として望み願いながら授業 を行っている。

1. 授業の導入について

授業の進め方として導入はとても大切であることは言うまでもない。この授業に際しては6月に 教育実習が始まるため、羞恥心を無くし先生と言う女優になりきるために、「朝の模擬お集まり会」 をしている。

この「朝の模擬お集まり会」は子ども達の前で おじけず恥ずかしがらず堂々と話すこと、また子 ども達の言葉や反応をすぐさまキャッチしてそれ を返すことに慣れるための授業の導入である。6 月実習までに全員が「先生役」になれるには時間 がないため、1人ではなく2人や3人一組で出欠 を行っている。「先生役」ではない学生達は、「子 ども役」になって、子どもの心理状況になって返 答することとしている。出欠を取るにおいて、た だ「子ども役」の学生の名前を呼ぶのではなく、 子ども達が興味を持てるような工夫、例えば6月 実習は梅雨時期なので「カエルさんになってお返 事しましょう!」と名前を呼び、カエルになりきっ た「子ども役」の学生がどんな風に返答したかに 対しての受け答えや声賭けもしながら出欠を取る。 終了後にはみんなで「先生役」はどうだったか、 良い点・課題点を話し合うことを行っている。

この「朝の模擬お集まり会」を授業の導入として取り入れることが、学生にどう影響を及ぼしているのかをアンケートに取ってみた。一部ではあるが感想は以下の通りである。

- *この導入は実習の前に役に立ち是非とも続けて 欲しい。
- *子ども達でも人の前に出ることは同じなので、 緊張感が高まり動揺してしまうため、何を話し て良いのか頭が真っ白になるため体験していて 良かった。
- *ただ名前を呼ぶのではなく、子ども達が興味を 持てる内容の工夫や声賭けを常に描いておく必 要性を感じた。
- *「子ども役」の返答に対していつも同じ声賭け になってしまい、いろんな声賭けや反応表現を

想定しながら考えておくことが大切。

*「子ども役」が同級生でもみんなの前に立つこと話すことはかなりのプレッシャーがあり、笑顔がこわばり大きな声も出なかった。

以上、ほんの一部の感想ではあるが、100%この導入を取り入れた授業で良かったと答えてくれ、学生個人個人の課題点は何なのかを知る上でも良かったと感じている。今後も導入として取り入れていくつもりである。

2. 手遊び歌について

1年生は「手遊び歌」の授業がなく、12月と3月の施設実習では「幼児音楽指導法」の歌唱指導で使用されている「こどものうた200選」に僅かながら載せてあるものや、図書館で独自に調べて実践しているようだ。しかしながら、「手遊び歌」の正しい知識がなく、音程の問題を含め注意すべき点がわからず、またどんな時に使う「手遊び歌」なのかの理解不足で行うこととなり問題点にあげても良いと思う。

2年生になると教育実習と保育園実習で、子ども達が大好きな「手遊び歌」はよく使われるため、授業ではなるだけ多くの「手遊び歌」を指導している。

「手遊び歌」はパフォーマンスが主流となりがちで、音程が定まらない場合があるが、音楽の一部であるため音程とリズムは正しく、そしてパフォーマンスははっきりとわかりやすいようにと繰り返しの指導が必要である。ただし、歌いにくく覚えにくい場合やリズムが難しい場合は、子どもがし易い音程やリズムに大まかではなく少し変えてみるのは良いと考えられる。また、月齢を表示してある「手遊び歌」でも、その月齢だけにふさわしく使われるのではなく、未満児でも手や足、頭や頬などを優しく触れて動かしたりするスキンシップを取りながらでも十分に使える。その時に正しい音程で歌うことが大切になってくる。

授業だけでの資料(パフォーマンス付き楽譜) に頼らず、図書館や本屋、現代においてはネット でも調べることができるため、たくさんの引き出 しを持っていつでも利用できるよう、自分の宝と して保育現場で実用させて欲しい。

「手遊び歌」はどんな時でも使えて、特に子ども達の動向などに困惑した際に助けてくれる一番のものであると言っても過言ではないと思われる。

3. 季節の弾き歌いについて

殆どの学生は歌を歌うことが大好きで、授業で 指導した楽曲を授業終了後にも口ずさんでいるこ とが多い。しかし発声においての問題点・課題点 があることで歌う喜びや自信が失せてしまい笑顔 も自然と少なくなるのが現状である。そしてこの 弾き歌いで一番のネックはピアノ伴奏である。歌 うことへのコンプレックスを抱いている学生や、 ピアノ奏法の苦手意識や追いつかず行き詰まる傾 向が大いにある。昨今のピアノレベルではピアノ 経験が殆どない初心者が入学するため、0からの スターとでなかなか指導も難しく時間が足りない。 特に「弾き歌い」の上達には練習の仕方をピアノ 担当教員から指導されていることを素直に忠実に 守り、コツコツと練習を積み重ねることが第一で ある。

歌においては口角から頬にかけての表情筋を アップさせて、笑顔で声のトーンを明るくする。 丹田を意識して共に腰筋や背筋、腹筋を使うこと も言うまでもない。地声からファルセットに移行 しなければ声が思うように出ない学生、ファル セットで統一しないと出ない学生、地声とファル セットを交えたミックスヴォイス、地声で子ども の歌の音域まで出せる学生、と様々であるため、 個人的にレッスンすることが一番である。受講す る学生の人数や授業時間、授業内容を考えると、 授業内で個人的に指導する機会は極わずかであり、 個人的に学生自らがレッスンをして欲しいと言う 傾向は増えている。立って歌うことと座って歌う ことの歌いやすさの違い、つまり立った状態で歌 う体の筋肉の使い方よりも、座った状態で歌う体 の筋肉の使い方の方がより神経を使うこととなる。 ましてやピアノを弾きながらではかなり難しいこ とであり、就職先の現場では時折子どもの様子を 見ながら弾き歌いをすることも必要となってくる ので、学生にとっては苦痛になってしまうのは当

たり前と理解している。

「声」を出すと言うことは体の力を抜き、顔や体の筋肉をどのように使うかで変わってくるが、「歌う」ことの大切さは「言葉」や「イメージ」であると、自らの歌の演奏や学生への指導の仕方で実感している。歌詞の意味を調べて「イメージ」を持つために、その歌の絵を描いて歌詞と言うフレーズの「言葉」を声に出して読むことを必ず行ってから歌うことを指導し、授業内でも勿論そのことを重要視して進めている。学生からもこの経過があって歌うのと、なくて歌うのとでは大げさではなく雲泥の差であるとの意見であった。指導者としても、この経過があってこその「歌」であることを改めて認識し、今後もこのような授業の展開をしたいと考えている。

4.「手作り手遊び歌」について

「手遊び歌」は子ども達が大好きな保育実技で あり、朝のお集まり、絵本の読み聞かせや話を聞 く態勢を取らせる時、給食前、晴天・雨天に関わ らず教室内で楽しむ時、お帰りの時など、一日の 流れの中で様々な時に、様々な「手遊び歌」が保 育に活かされて成り立つことも大きい。就職先の 現場では勿論、実習先でもたくさん使う必要性が あるため、①手遊び歌についての項目で述べてい るように、月齢やどんな場面で行うのかなどを考 慮しながら自分の引き出しを増やすよう指導して いる。しかし「手遊び歌」は一これでなければい けない一と言う訳ではなく、先ほども述べたよう にどんな場面でどれくらいの発達状態であるか、 そしてその「手遊び歌」を子ども達が楽しめるか によって行うことが大切であると感じ、そうであ れば既製の作品に限らず学生達のオリジナルの 「手遊び歌」を作ってみてはどうかと言う発想に 至った。題して「手作り手遊び歌」である。

3年程前より後期の授業でグループ活動として 取り組んできたが、最初は学生がどんな所につま づくのか、楽しめるのか、アクティブラーニング として通用するのか、完成できるのか、発表しあっ て感想・意見を交換できるのかなど不安ではあっ たが、どのような作品ができるのかの楽しみも あった。

授業を進めるに当たってまずは学生に基本中の 基本である楽典の復習をした。楽典と言っても 極々簡単な決まりごと、ト音記号・ヘ音記号・音 符・リズム・調・拍子・楽譜の簡単な書き方など、 そして1年次で受講したコードについて。驚いた ことに1年次でも読譜、音符の読み方や長さ、書 き方など極々簡単な楽典の授業で学習したはずだ が、殆どの学生が覚えておらず、1からの説明を 行う必要性があった。また、それと同様に1年次 で学んだコードも忘れている学生が殆どで、この 復習も必要となった。オリジナルの「手遊び歌」 が完成するまでには最初の楽典とコードの復習が とても重要であることがわかった。と同時に、完 成するまでにかなり時間を要することも想像でき、 3班に分かれての授業でさらにそれぞれの班で前 半と後半に分けて行うと、各班各前半・後半の1 回当たりの授業時間は45分、ピアノ個人レッスン 室からの移動があるため正味40分程度で、短い時 間帯の中で授業の進め方への工夫は大変であった。

これらのことを踏まえての「手作り手遊び歌」 の完成には、学生達がグループ活動で何を学び、 どんな楽しみや喜び、逆にもがきや苦痛を得たか を知ることができた。ピアノを弾くにはまずは楽 譜を見れることが第一であり、みんなそこから始 めて練習をする。しかしこれが譜面を見るのと 違って譜面を書くのがどれだけ難しいかは当然と 言えば当然である。譜面を読むのは習慣づいては いても、譜面を書くこと、特にしたことがない作 曲をすることは難題であろう。譜面を書くと言う だけでも必要に応じなければしないことであり殆 ど不必要である。それがしかも作曲となれば大変 な苦痛と不安を学生に与えるのではないだろうか。 そのことを察して一人での作業ではなく、4.5人 を1グループにした活動を行うこととした。「手 遊び歌」を授業や実習先でたくさん学び経験して はきたが、いざ自分達でオリジナルを作るとなる と、どこから手をつければ良いのか皆目検討がつ かなかったようだ。

3年前には題材(題目・題名)を教員が予め「朝のお集まり」「絵本の読み聞かせの前」「帰りの

会」に限定して提示し選択してもらった。調もハ 長調のみでコードも必然的にC・F・Gのみとし、 拍子は4分の4拍子、と同じように限定して選択 しての作業となり、小節も8小節と短くした。

教員が予め提示した形での「手作り手遊び歌」 はなんとはなくの作品となったが、学生の反応は 取りかかりが難しかったが完成させた達成感を得 られたとの感想で、各グループの発表も楽しんで いた。

このように年度を重ねて少しずつ教員の限定する提示の中身を増やしながら変えていき、この「手作り手遊び歌」のグループ活動であるアクティブラーニングを続けてきた。

今年度の「手作り手遊び歌」の授業内容と進行、 学生のグループ活動内容、完成した作品、アンケー トを報告することとした。

①【「手作り手遊び歌」を完成するための導入と 説明及び必要事項の指導と連絡】

- *1年次でのコード奏法で学んだ復習 コードの種類→C・F・G・C 7・F 7・G 7・D・D 7・A・A 7・E・B・Cm
- *コードのメージャーとマイナーの仕組み
- *和音の基本型・第一転回型・第二転回型
- *調の説明→ハ長調・ヘ長調・ト長調・二長調・ 変ロ長調・イ短調・ハ短調
- *調号を書く順序
- *拍子の種類・意味と拍子打ちの練習
- * 各音符の長さ
- *リズムの種類
- *楽譜は一番左から大切なことが記してあること の確認
- *楽譜の書き方→大譜表・調号・表紙・繰り返 し・復縦線・終止線
- *調が決まってからの始まりの音と終わりの音 の例
- *コードの付け方
- *コードを伴奏形態にする際の例
- *題材(題名・題目)を決めるに当たって
- *「手作り手遊び歌」の作品を完成させるための 手順→題材決め(題名・題目)、調の決定、拍

子の決定、歌詞作り、メロディー作り、パフォーマンス作り、コード付け、伴奏作り

- *小節は8小節~12小節までとする
- *メロディーは子どもが歌い易い音域も加味して 作る
- *歌詞作り、メロディー作りはどちらを先に作る かは作り易い方とする
- *調や拍子を決めて取り組み始めていても、メロディーや歌詞の状況によっては変えて作る
- *グループ(1グループ4.5人)での活動なので、 一人や音楽が得意な人に任せることをせず、一 人ひとりが責任を持ってチームワークを大切に 積極的に取り組むことの指導
- *メロディーが浮かんで五線紙に音符を直接書いて進めるのが苦手な場合は、カタカナで音符の 名前を書いておき、その後正しい音符に直すこ との指導
- *活動のために必要な鍵盤楽器は、授業を行っている音楽あそび室のオルガン(5台)・キーボード・アップライトピアノを使用
- *完成するまでの授業回数は3回とし、発表は4回目とする
- *発表後の提出物と作品の清書の仕方を説明 (教員が準備した用紙に楽曲と歌詞、パフォーマンスを丁寧に清書して、下書きとグループアンケートを含めた3枚を提出)
- *清書した作品においては、授業外の空き時間に グループ代表者が、教員にチェックしてもらう
- *グループ分けをして「手作り手遊び歌」第1回 目の授業までには、宿題として題材を決めて おく

(2年生全員を3班に分けての各班前半と後半 に分けて4グループ 因みに1グループ4.5人)

②【学生の活動内容による状況と教員の指導】

- *「手作り手遊び歌」に授業第1回目ではあるが、 事前にグループ分けと題材を決めておくよう指 示していたため、アップライトピアノ、キーボー ド、オルガン2.3台ですぐに活動が始められた。
- *歌詞から取り組むグループが殆どで、メロディーから取り組むグループは2.3グループし

かなかった。

- *取り掛かりやすいハ長調を使うグループが多いため、各グループに取り組み進行中のメロディーを違う調で弾いて聴かせ、どの調が自分達の曲にしっくりいくかを聴き比べる指導をした。その結果、ハ長調よりニ長調の方が合う、または子ども達が歌いやすそう、テンションが上がってくるなど、ハ長調と違う調に変えて取り組み始めたグループが幾つかあった。
- *動物をテーマにしたグループが多く、理由としては子ども達が動物に興味があること、また、「手遊び歌」として可愛いく、動物の鳴き声やしぐさ、体の部位を表現しやすいからと答えていた。
- *浮かんだメロディーを五線譜に音符として書きながら取り組んでいくのが難しいようで、カタカナでソソミラソソファファレレドレミ〜などと言う書き方のグループが多かった。この書き方においては、導入指導で最初から音符を五線紙に書いて進めるのが難しい場合カタカナで書いて進めたものを五線紙上の音符に書き換えるよう予め指導していたので問題点としては捉えなかった。しかし、音符をすぐに五線紙に記せないのは、読譜にも弱いことを意味しているため、以前からではあるが読譜の練習強化が大いに必要であることを確認できた。
- *リズム形態が単純で、1年生や2年生で学んでいる「こどものうた200選」や「続こどものうた200選」や「続こどものうた200選」また、図書館で借りられる子どもの歌など、参考にできるリズム形態がたくさんあるのに、参考資料として他の楽譜を見ることをしなかったのは残念である。導入指導の一環として取り入れる必要性を感じた。
- *ピアノが得意な学生がオルガン、ピアノ、キーボードの椅子に座って弾き始め、他のメンバーが浮かんだメロディーを口ずさんだり、パフォーマンスを考えたりしていた。
- *ピアノが得意な学生が主となって進めているグループもあれば、ピアノは苦手でもアイデアやひらめきが湧く学生が主となりながらピアノは弾ける学生が担当していたグループもあった。

- *一人ひとりが同じ責任を持って活動することが 完成にたどり着くことと指導しているが、グ ループ内で積極的に取り組むことができず、消 極的で外から見ているだけで関われない学生が 目についた場合は、グループ内での協力を重要 視しながら活動するようにと厳しく指導した。 その指導によってか、次の授業での活動には気 持ちを切り替えて少しずつ意見を出し積極的に なろうと努力していた。
- *子ども達とどんな場面で行いたいかのイメージを持って歌詞を作っていた。
- *4分の4拍子が多く、学生は4分の3拍子や8分の6拍子はゆったりになりパフォーマンスが難しく、子ども達も乗りにくいと思うと話していた。

しかし、あるグループの内容を尋ねたところ、4分の4拍子より3拍子に変えることで思い描いているイメージに近くなることと、ラストにリズミカルに終ることでテンポ感の変化ある作品になるのではと指導した。

- *歌詞で悩み、内容も薄く短い曲になっているグループには、どんな場面で使いたい「手遊び歌」なのかを再度話し合うこと。授業で使っている「こどものうた200選」などからリズム形態を参考にして、今取り組んでいる作品から新たな作品を作り上げるよう指導した。
- *既製の「子どもの歌」や「手遊び歌」が耳から離れずなかなか取り掛かれず悩んでいた。鍵盤を使ってたくさんの音の組み合わせを試してみてはと指導した。
- *全体的に隣の音、つまり全音上か全音下に進み ながらそれが続いてしまう傾向があった。 3 度 飛ばしてのメロディー作りには抵抗があったよ うだ。
- *左手の伴奏となるコードが何かを迷って、旋律であるメロディーにある音を根本に、コード和音をさぐっていた。この取り組みは良い傾向で、合う和音が見つかれば基本型の和音に直してコードを思い出す取り組みのヒントを与えた。
- *授業時間内でどんどん進み完成に近くなっているグループと、進み具合が遅く授業時間内では

なかなか先に行かず考え込んでしまうグループ とに分かれてしまったが、進度が遅いグループ は特に空き時間や休み時間に集まって取り組ん でいた。

- *グループ全員で全てを考えている場合、考えやイメージがストップしてしまうことがあったため、そのまま次回の授業に持ち越すのではなく、それぞれに題材に見合った歌詞やメロディーを考えてからそれを持ち寄り、各々のアイデアを組み合わせることも一つの方法と指導した。
- *下書きではあっても、楽譜を書くと言うことに かなりの抵抗があり四苦八苦していた。
- *最初の取り掛かりに手間をとり悩んでいるグループが半分ほどいたが、次第に独自のメロディーが頭に入りパフォーマンスを楽しんでいた。
- *音楽あそび室には全身が見れる大きな鏡がある ため、その鏡を利用して、パフォーマンスの出 来具合を確認していた。

③【「手作り手遊び歌のグループ発表】

- *発表授業の前に5分間、仕上げ練習の時間を与 えてから本番発表を始めた。
- *どのグループも笑顔で楽しく発表できていた。
- *自分達で作った作品なので曲においては音程が しっかりしており、何を歌っているかもはっき りわかった。
- *パフォーマンスにも工夫が見られて、子ども達が楽しめそうな発表であった。
- *見ている学生も楽しそうで終始笑顔であった。
- *他のグループがどんな「手作り手遊び歌」かに 興味津々であった。
- *お互いのグループ同士で褒めあっていた。
- *発表するグループは、見ている学生に子ども役になってもらい、発表の「手作り手遊び歌」を 教え伝えることができた。
- *どの班のグループもこれまでにない笑顔で発表 を楽しみ満足していた。

④ 【学生の「手作り手遊び歌の完成作品】

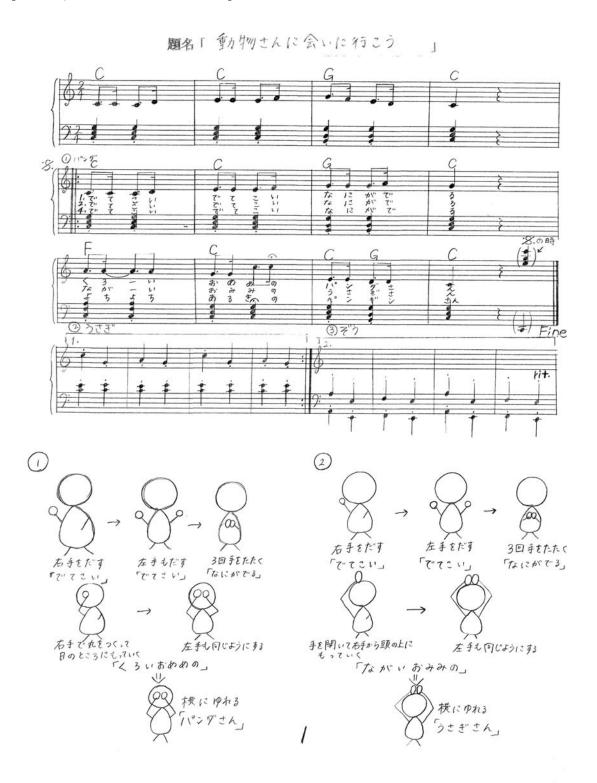
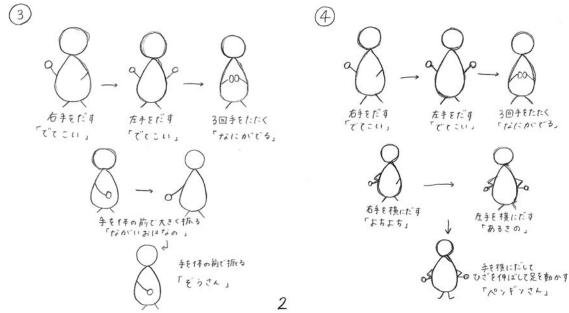


図 1





簡単ながら弾むリズムで始まり、3番に移る前に 間奏でハ長調からイ短調に変わるところ、そして 2拍子から3拍子になり雰囲気がガラッと変わる ところがおもしろい。歌詞も「でーてこいでーて こい~~~」は子ども達に興味をひかせているフ レーズであり、大きい動物が予想されるのもよく 工夫されている。それからまた間奏からハ長調に 戻って可愛らしい動物になることで終わりがまと まる。パフォーマンスも覚えやすく低年齢児でも すぐに覚えれそう。また、他の動物にも変えられ る応用が利く。

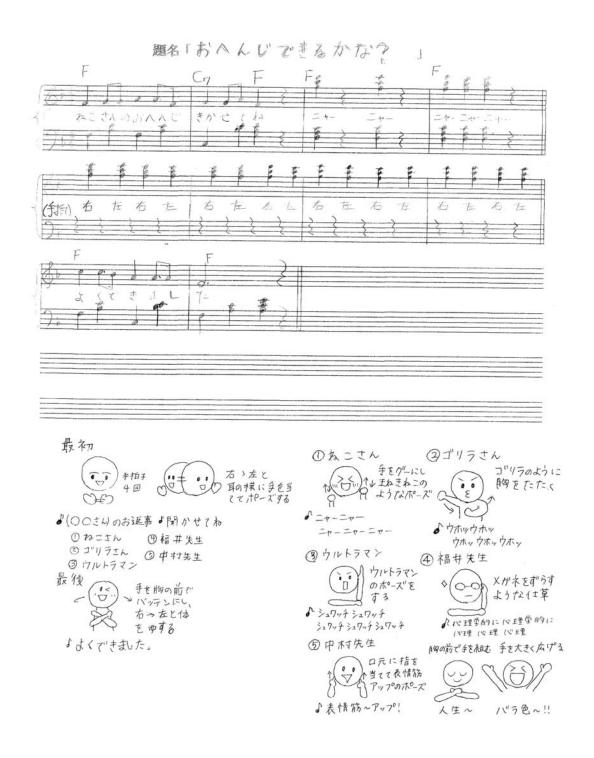


図 2

{感想}

リズミカルで乗りやすく子ども達が好きそう。手 拍子の時の伴奏付けも良い効果がある。動物に よっては鳴き声のところの音の高低差をつけると 子ども達の創造性がより高くなるのではないだろ うか。また、癖になりそうなメロディーとフレー ズなので誰もが覚えられる。

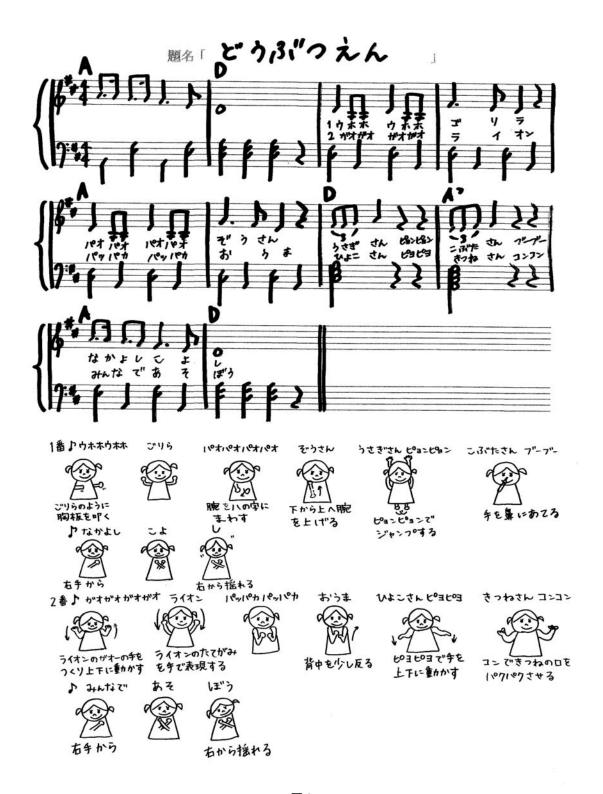


図 3

スも各動物の特徴が出ていてわかりやすかった。

最初はハ長調であったが、二長調になったことで音楽がより明るくなったことと、歌いやすくなった。3連符の導入も曲の形態に合っており小動物の登場にぴったりである。いろんな動物の登場は子ども達の興味をひき楽しくなる。パフォーマン

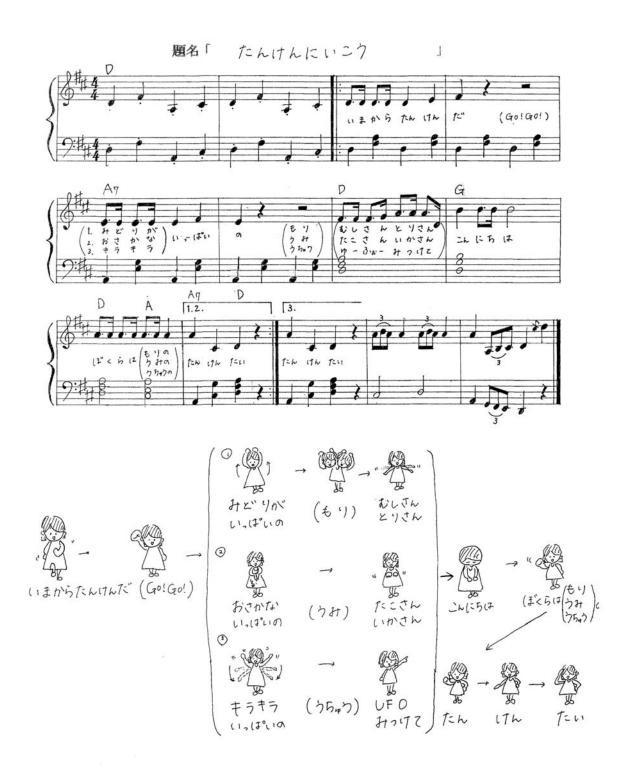


図 4

二長調のこの曲の前奏は、何か楽しいことが始まりそうに感じる。掛け声もみんな乗りそうでポイントになっている。最後の「たんけんたい」のメロディーは正しく教える必要がある。遠足の導入にも使えそうである。

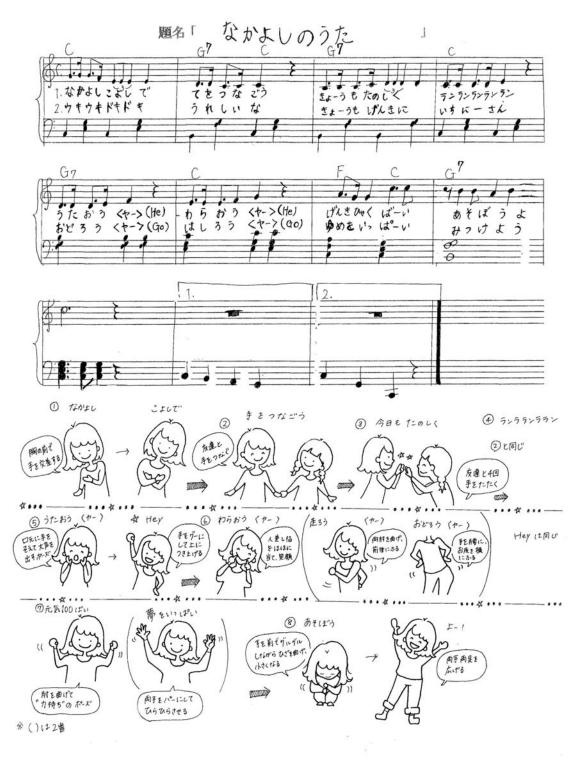


図 5

び動き歌」と称して使うと良いのでは。

覚えやすいメロディーラインを作っている。また 伴奏も考えて作っている。難しいほどではないの でみんなトライして欲しい。「朝のお集まり」で 使えそう。2番の途中の歌詞で「ゆめをいっぱい ~」が心に残った。「手遊び歌」の中でも「手遊

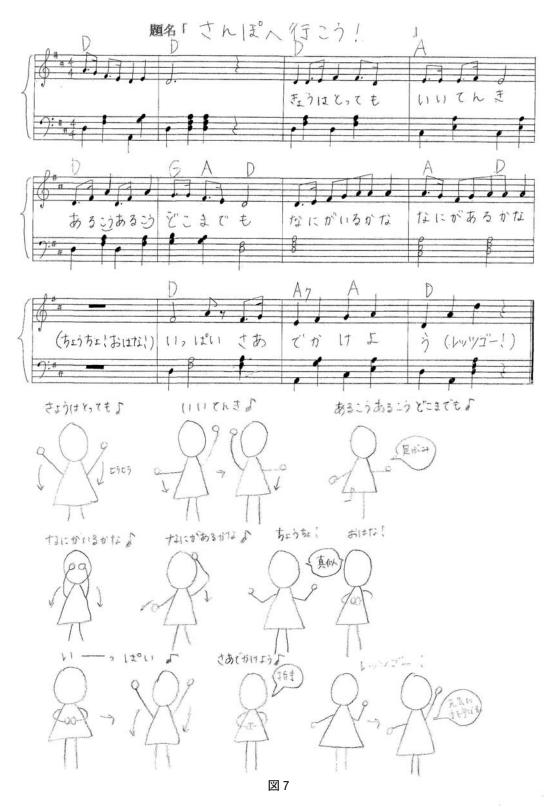


① ~ ③ : 共通

図 6

{感想}

テンポが良い曲の上、一つひとつのネタで質問 コーナーを作って正解は高音でそれらしい音を チョイスしている。4番でハ短調になるところが おもしろい。おすしでわさびを思わせる感じが子 ども達の影響も多いと思った。パフォーマンスも 楽しく乗りやすく、台詞もあって「手遊び歌」を 知らなくても問題形式のため興味を持てる。



て使うと良い。

少し覚えにくいように思える曲ではあるが、おさんぽの雰囲気が感じられる。座ってする「手遊び歌」より立ってする「手遊び歌」あるいは「歌遊び運動」にも思える。最後の「レッツゴー!」は音としては高いので、歌うのではなく掛け声とし



図 8

{感想}

とにかく一番耳に残ったメロディーであった。音の高低を上手に使って工夫していた。「ジュワジュワ」「モクモク」などの擬音語が楽しく子ども達は大好きであろう。さんまが焼かれているイメージがあり匂いまで想像できる感じがした。パ

フォーマンスも覚えやすいが、全身を使っている ことで「歌遊び運動」にも感じられる。手を上げ る動作が多過ぎたようにも思える。この曲でいろ んな場面での準備が苦手な子ども達に、早くやっ てしまおうと言う気にさせるようにも思う。

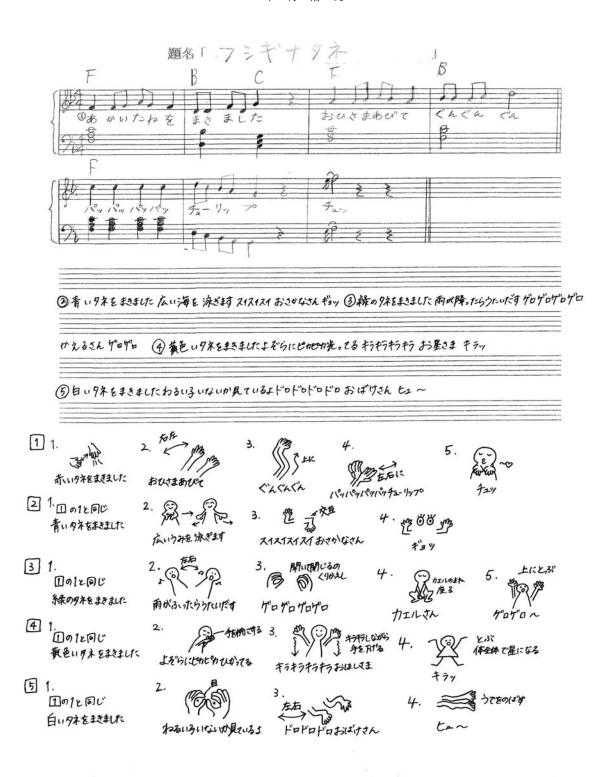


図 9

{感想}

全体的に高音域で子ども達が歌いにくい。ラストは1オクターブ下げてが良い。頭に残らない曲になってしまったように感じるがパフォーマンスはよく考えたようだ。



図10

最初は音が飛ぶところが多いと感じたが、かえって子ども達にはおもしろくて覚えてしまうようにも感じられた。未満児に対しても顔のパーツを使うため、目などの安全面を気にしながらスキンシップを取りながらできると思う。

⑤ 【清書提出の確認指導】

完成して楽しく発表も行い、学生はみんな満面の笑顔でその楽しさに浸っていた。しかし清書を提出するに当たり、その清書が正しく書かれているかの確認をした際、導入で指導した楽譜の書き方を忘れているグループが殆どであり、訂正が多かった。完成して発表する時には耳で覚えて発表している傾向が強いと思われる。やはり基本的で簡単な楽典・ソルフェージュの指導強化が必要なのではと考えてしまう。来年度は時間的な余裕がなくとも「手作り手遊び歌」での導入であるコードや楽典の復習をしっかりと指導したい。

おわりに

2つの内容を前半と後半に分けて行うこの授業で一番感じることは、とにかく授業時間が足りないと言うことである。前半と後半それぞれ45分ずつと言っても、教室の移動時間や教員が学生に指導する際の区切りの関係も加味されて時間的な余裕が殆どないのが現状である。

今回主なテーマとした「手作り手遊び歌」の学生活動も、授業内のみでは完成・発表することはとうてい無理である。しかしながら学生に世界でたった一つの自分達が作った、手作りの「手遊び歌」の完成過程までの活動や(まさにアクティブラーニングと思う)、完成した時の達成感や喜び楽しみを感じて欲しく、授業以外の時間にも活動を強いてしまったところがある。学生もタイトなスケジュールであるため、なかなか時間が取れないのは理解しているのだが、1回40分弱の授業で「手作り手遊び歌」の取り組み・活動と指導を3回行い4回目で発表はかなり厳しい。

独自のグループアンケートを取ったところ、世界にたった一つの自分達が作った「手遊び歌」を完成させられ発表できたことはとても楽しかった。と100%が答えてくれた。取り掛かりが難しく途中でもスムーズに進まない時もあったが、最終的には楽しく取り組み発表でき、さらに他のグループの発表も見れて、学ぶことが多かったことと、とにかく楽しかった。また次年度も授業に取り入れた方が良いとの意見も100%であった。

学生の嬉しい感想に甘んじることなく、今年度 の課題点を謙虚に受け止め、学生との信頼関係を 築きながら授業内容の研究を今後とも続けて邁進 していきたいと考えている。